

乳幼児期発達の諸相における相互性について（その1）

ー「なあに？」という発問をする時期の運動的・造形的視座からー

北原 隆史 平田 智久 細田 淳子 若山 剛 大沢 力 二宮 譲
（東京教育専門学校）（十文字学園女子短期大学）（東京家政大学）（村山中藤保育園）（東京教育専門学校）（十文字学園女子短期大学）

I. はじめに

「幼児の自発的活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培い、さらに、その幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い多様な経過をたどって成し遂げられる」といわれている。幼児の発達を考えると、遊びは大変重要なことであるが、もう一度遊びの中味を総合的に、相互的に発達の在り方を通して見直す必要性を強く感じた。

外界への興味関心を現わす行動としてポインティング（指差し行動）が良く知られている。同様に言葉で「なあに？」を発問する時期がある。その時期の子どもに注目して保育記録を分析することにした。本研究では特に運動的、造形的視座より「なあに？」と発問する時期の発達について保育の記録から分析検討することにした。

II. 研究の方法

東京都郊外の私立保育園N保育園、東京都内私立大学の併設されている保育施設の保育記録を閲覧し、「なあに？」と発問していることが記録され、顕著に運動的造形的行動が読み取れる子どもの記録を対象とした。また、東京都小金井市在住の母親5名に、「なあに？」と発問していた頃の子どもの様子について面接調査を行い、考察する際の参考とした。

III. 結果と考察

1. 「なあに？」と発問をする時期と

運動的造形的行動

「なあに？」と発問をする時期とその1ヵ月前後の運動的造形的活動の記録を抽出すると表1. のようになった。「なあに？」と発問をする時期の運動的行動としては、「歩く意志を見せ、意欲的に歩く」「段差などにも自ら挑戦する」「段差のある積み木を安定して渡り歩く」「梯子、左右の足を交互に出して渡れる」「平均台、手をつないで足を交互にだして渡る」「サッカーボール、転がってきたところをタイミングよく蹴れる」「モールにビーズを通すことができる」「一本橋を見つけるとそこを歩く。少し狭い幅であっても、両手でバランスをとりながら、慎重に歩くことができる」等、意欲的で活発な活動の様子が認められた。しかし、「なあに？」と発問している子ども、個々の行

動内容を分析すると、A男児「歩く意志を見せ、意欲的に歩く」といった活動内容とE男児「サッカーボール、転がってきたところをタイミングよく蹴れる」、F男児「モールにビーズを通すことができる」といった活動内容とでは活動の質が異なっている。A男児は「歩く」という基本的な運動を意欲的取り組み段階であり、F男児は移動している対象物を視覚情報により運動をコントロールできるといった功ち性の高い運動を行っている。F男児の運動も指先コントロールが意志通りにできるという功ち性の高い運動である。このように、それぞれ個性的な発達の姿が読み取れる。このことは、「なあに？」と発問する時期と運動的な発達の状況は必ずしも一致していないことを示している。

運動的活動と同様に、「なあに？」と発問をする時期の造形的行動としては、それぞれの子どもの個性的な発達の姿が見られる。B女児「フィンガーペインティング、手を使って、ダイナミックに行う」、D女児「ボディペインティング、手で感触を楽しむ」など、意欲的な行動の姿が見られた。同じくD女児では「ねんど、手の平でのばし、へびに近い形を作る」行動は左右の手の協応動作ができるようになってきていることを示す造形的行動も見られた。C男児は「ブロックをつないで遊ぶ」といった自らが法則を持つてものをコントロールしている行動と思われる。また、A男児「ねんど遊びには興味を示さない」、H女児「おだんごを作ったが3～4分ですぐに飽きてしまう」「絵に興味がなくシャシャと描いてすぐにいってしまう」といった行動も見られた。このように、それぞれ個性的な発達の姿から

「なあに？」と発問する時期と造形的な発達の状況は運動と同様に必ずしも一致していないことを示している。

2. 「なあに？」と発問する時期前後1ヶ月の

運動的造形的行動

「なあに？」と発問する時期においてさまざま個性的な発達の姿が認められたが、それぞれ個々の「なあに？」と発問する時期前後1ヶ月の運動的造形的行動を検討すると、意欲的、積極的な行動の変化が見られた。A男児は「ねんど遊びには興味を示さない」から1ヶ月後には「フィンガーペインティング、自ら喜んで行う」と変化が記録されている。D女児は「ボディペ

表1. 「なあに？」と発問する時期とその前後1ヶ月の運動的造形的行動

		運動的行動	造形的行動
A	1ヶ月前	園外、よく歩き、転ぶことなく安定している	自分のマークがわかる
	なあに	両足跳び、くぐる、しゃがむ、またぐなどできる 三輪車、地面をけり、スピードをつけてこく、乗り降りもスムーズ 歩く意志を見せ、意欲的に歩く。段差などにも自ら挑戦する 保母とおいっかけを楽しむ	パズルボックスなど一致することが多い ねんど遊びには興味を示さない
	1ヶ月後	階段、トンネルなどをのぼりおりを意欲的に楽しむ	小麦粉ねんど、出来た物は喜ぶが、自分からは作らない フィンガーペインティング、自ら喜んで行う
B	1ヶ月前	自ら「アンヨ」と歩く意志を伝え、意欲的に歩く ワンバクジムで高いところまで登れる 肋木、上まで登り、周囲を見渡したり、ぶらさがる 「ヨーイドン」の合図で担任と一緒に走り出す	両手の協応がうまくいく クレパスは、にぎりもちで何を描くか言いながら描く 青、赤、黄、緑、色名と一致する
	なあに	段差のある積み木を安定して渡り歩く 階段、手で上手にバランスをとって登る 坂の上り下りを楽しむ かけ声で、目標物まで走れる	フィンガーペインティング、手を使って、ダイナミックに行う 小麦粉ねんどに関心を示す
	1ヶ月後		ブロック、集中してつないで遊ぶ
C	1ヶ月前	手を使わずに、階段を上り下りをする 園外でも、自ら歩き、ペースも早い 目標物を目指して走れる	小麦粉ねんど、集中してちぎったり、長時間遊ぶ
	なあに	梯子、左右の足を交互に出して渡れる 階段から両足飛びができる 鉄棒、足を曲げてぶら下がる 水道の蛇口をひねったり、押して水を出す ビンの蓋を器用にあげる	ブロックをつないで遊ぶ
	1ヶ月後	滑り台、安定して滑れる。その他のいろいろな滑り方ができる 斜面を勢いよくかけおける	ボディーペインティング、嫌がらずに楽しむ シール、端をめくってあげると上手にはがして貼れる
D	1ヶ月前	鉄棒、一瞬足をあげてぶら下がれる	
	なあに	踏切板の間、8センチ程度をまたいで渡る 平均台、手をつないで足を交互にだして渡る	ねんど、手の平でのばし、へびに近い形を作る ボディーペインティング、手で感触を楽しむ
	1ヶ月後	滑り台、滑り方を変えて楽しむ 両足跳びができる	ブロック、板の上に並べてつけたり、集中して行う
E	1ヶ月前	滑り台、安定してすべる	
	なあに	箱ぶらんこ、一人で地面を蹴ってこげる ワンバクジムの上まで登れる。(降りるときは介助) 一人で椅子ブランコをこげる 三輪車、ペダルを踏んでこくことができる サッカーボール、転がってきたところをタイミングよく蹴れる フープ、上手にくぐる	積み木を、5～6個、積み重ねる ねんど、はじめは手を出さないが、ストローがきっかけで遊ぶ
	1ヶ月後	小豆を上手につまんで容器に入れる	ブロック、上手につなげて遊ぶ タンポ、興味を示し、進んでやる
F	なあに	かなりのスピードでかけ足することすることができる モールにビーズを通すことができる 一本橋を見つけるとそこを歩く。少し狭い幅であっても、両手で バランスをとりながら、慎重に歩くことができる	画用紙の画面いっぱいにならないようにシールを貼る
G	1ヶ月前	鉄棒にぶら下げてあげるとはやめのスピードで数えて30秒まで つかまっていることができる	
	なあに	歌に合わせてその場でクルクルまわる(5～6回)ことを楽しむ	大きなまるの中に、小さなまるを2～3個描いて顔らしいものを 表現するようになる
H	なあに	体をおもいっきり動かす	おだんごを作ったが3～4分ですぐに飽きてしまう 絵に興味がなくシャシャと描いてすぐにいってしまう

インティング、手で感触を楽しむ」「ねんど、手の平でのばし、へびに近い形を作る」から「ブロック、板の上に並べてつけたり、集中して行う」という並べていく面白さや並べたブロックからイメージをもって取り組む行動も見られている。これらは、運動機能の発達による様々な動きの拡がり、活動範囲の拡がり、活動内容の拡がり、造形的活動への興味関心の高まり、意欲の高まりに何らかの関連があることを示唆していると考えられる。

IV. まとめと今後の課題

運動的・造形的視座から「なあに？」とよく発問する時期の子どもの活動を見ると、運動的な機能の発達と子どもの造形活動の拡がり、それぞれ個性的な発達の姿が認めれた。

今後の課題として、母親との面接において、この時期、「叱られると分かっているながら、わざと飲み物をこぼしたりする行動が見られる」そして、その時期の造形的行動は「集中しないでサッサッと描いて、すぐ別の遊びになってしまった」との事例があった。

このように、運動的身体的発達とともに造形行動も育ってきている乳幼児であっても、その時折の心理的、情緒的側面から、造形表現されていることもある。そうした、乳幼児の姿に接し運動、造形の視座からの今後の研究を深めなければならないと感じている。また、今回、家庭、兄弟の状況については調べることができなかったが相互性を考える上で重要な要素であるので、さらにデータの収集の方法も考慮し、継続的に調査していきたい。